

郷土を知り、郷土を愛する

志木市 歴史たんぼ

執筆・協力 志木のまち案内人の会

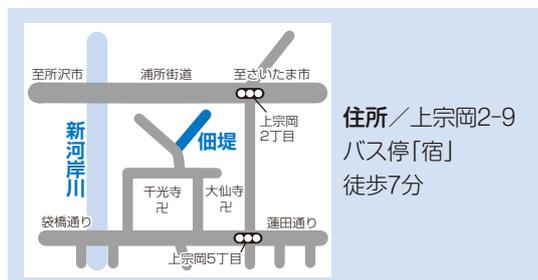
第13回 つくだつみ 佃堤



▲佃堤の史跡



▲佃堤の歴史を記した看板

住所／上宗岡2-9
バス停「宿」
徒歩7分

上宗岡の千光寺地先、南畑との市境に土管半分が連なって地中に埋もれている小径があります。その道はすぐに左にカーブしますが、土管列は盛り土の上を住宅街の裏と南畑側の田圃の間の市境を北に進んでいます。この雑草に覆われた土管のある盛土列が佃堤です。

築堤は当初、土管はなく1,271mの長さがありました。正保から寛文のはじめ(1644~1662)に、いろは樋で功績のある白井武左衛門が荒川と新河岸川を1.2mの高さで結び築いた堤防です。

江戸時代、洪水が多発する宗岡地区の水害対策の一環として築きました。低地の宗岡全体を囲む総囲い堤(総延長約8km)の一部として、宗岡を水害から守るため考案された、現存する貴重な史跡遺産となっています。ところが、良い面ばかりではなく、問題が生まれました。南畑側は堤防が高いと洪水時の水引きが遅くなり、両村は紛争にまで発展。実に120年もの長きにわたり、高さを巡って抗争が続きました。

やがて、明治期の県会議員の仲介や、耕地改革、近年には浦所街道の開通などで佃堤は分断され、難問は解消。最近では国道254号バイパスの延長工事ですらに分かりにくくなっています。

白井武左衛門は水を取り込む仕事(いろは樋)と水を排除する仕事(佃堤)の両方を実行したこととなります。

近頃の異常気象で経験のない土砂災害が多く、命を守る災害対策の準備と備蓄品の確認をお忘れなくお過ごしください。



志木市長 香川 武文

ら、ゆったりと過ごせる広々とした空間が欲しい」というご意見も多数いただいているところです。こうしたことから、再整備にあたっては、自然再生条例に基づき、整理する樹木は最小限にとどめるとともに、新たな樹木の植栽により樹木の本数を維持し、低木の補植や芝生化により緑被面積を増やすことで、人と自然が共生する環境の創造と、魅力的な空間の創出をバランスよく両立していくこととしています。

また、公園の整備は、民間の資金を活用できる公募設置管理制度(Park-PFI)を、管理には指定管理者制度を導入し、これらを一体的に行う事業者を公募した結果、メディアにも注目された公民連携による南池袋公園の再整備の実績がある民間事業者に決定しました。ウォーターパークなどの魅力ある遊具やカフェの設置など、民間事業者ならではのノウハウを生かし、常に整備が施されたいろは親水公園に自然と人が集まり、志木市のにぎわいの中心となる「夢のある公園」を目指します。

今、自治体にはSDGsの視点を持った持続可能なまちづくりが求められています。本市も、将来的に訪れる人口減少と、それに伴う税収減などの課題に対し、魅力を発信しながら、持続可能な「選ばれるまち志木」として成長し続けなくてはなりません。当然、持続可能を意識しながら、豊かな自然を後世に残していくために、緑地などの自然保全にも取り組まなければなりません。いろは親水公園の再整備においても、この2つの視点のバランスを取りながら、持続可能な地域資源に結びつく公園となるよう、来年の新庁舎完成と合わせたオープンに向けて着実に工事を進めていきます。

自然と共生するにぎわいづくり

新河岸川と柳瀬川の間位置し、ウォーキングなどの健康増進や憩いの場として親しまれているいろは親水公園の再整備が今月からはじまります。

いろは親水公園の再整備にあたっては、これまで以上のにぎわいを創出し、本市の新たな魅力を創造するため、町内会連合会や商工会などの団体をはじめとする市民の皆様からさまざまなご意見をいただきながら、最適な魅力向上策について検討してきました。議会でも議論を重ねていただき、市民の皆様からご意見を募集する意見公募手続制度(パブリックコメント)を経て、「いろは親水公園の魅力倍増に向けた基本計画」を策定するなど、プロセスを積み重ねてきたところです。

再整備には樹木整理を伴うことから、「樹木を減らさないでほしい」という反対のご意見もいただいておりますが、一方で「樹木がうっそうと繁り、近寄りがたい」、「防犯上の観点から、死角のない開かれた空間にして欲しい」といったご意見や「志木市には公園が少ないので子どもたちが遊べる公園を作って欲しい」、「景観を生かしなが